

『つれもてやろら！まちづくり』第2回ワークショップ 開催記録

『つれもてやろら！まちづくり』ワークショップの第2回会議が、平成15年7月15日(火)の午後6時より、和歌山市役所の14階大会議室において開催されました。

今回は、前回のスタートアップ会議で意見交換した「ぶらくり丁と言えば？」の検討成果を踏まえつつ、今後のぶらくり丁のまちおこし・まちづくり方策を実際に考えていく意見交換が始まりました。この内容を報告します。

【第2回ワークショップの内容】

グループ討議

今回の意見交換のテーマは、前回のグループ別の議論で出てきたぶらくり丁周辺の課題(特に、昔の姿と現在の姿の対比)などを踏まえ、

- ① 「ぶらくり丁のあるべき姿」(理想像、夢)
- ② まちづくり・まちおこしのコンセプト(スローガン)
- ③ ぶらくり丁の理想の姿・コンセプトを実現するために考えるべきこと(テーマ)

について、4グループそれぞれに議論しました。

①の「ぶらくり丁のあるべき姿」については、各グループとも、「ぶらくり丁」という言葉の由来である「ぶらぶらできるまち」、すなわちゆっくりとした時間を過ごしながら、老若男女だれもがぶらぶら歩き回れるまちであるべきだ、との声が多く出ました。時間を楽しく過ごすことができるためには、商店街1店1店が魅力的であること、核となる施設があること、まち全体がつながりを持つこと、などが大切だという声が聞かれました。また、生活感のあるまち、住んでみたい・暮らしやすいまちを目指すべきだとの意見もありました。

②の「まちづくり・まちおこしのコンセプト(スローガン)」について、各グループで考え出されたコンセプトは以下になりました。

Aグループ	「アーバンライフ(都市生活)」 「衣食住遊 感動のまち」 「買いたい、住みたい、魅惑のまち」
Bグループ	アピールして人をキャッチするまち
Cグループ	必ずあるよ、できること、できることからコツコツと！
Dグループ	「におい」のあるまち

③の「ぶらくり丁の理想の姿・コンセプトを実現するために考えるべきこと(テーマ)」については、いろいろな視点からの意見がでました。「やはり商店街が元気になる方策を真っ先に考えていくべきだ」、「商店街で本当に頑張ろうとしている人達の後方支援が重要だ」、「集客や市民生活の核となる施設が必要だ」、「広告や宣伝戦略をもっと強化して、効果的な情報発信を行うべきだ」、「住みよさを高めて、今より多くの居住者がいるまちを目指すべきだ」、「まち全体として、もっと多くの人々の『共鳴・共感』を得ること

ができなければならない」などなど、メンバーの皆さんに、真剣な意見を出していただきました。



一回以降の検討テーマ設定、及びグループ分け希望調査

各グループの発表をもとに、次回以降のグループごとのテーマ設定を行いました。次回以降は、そのテーマを議論したいメンバーが集まって、新たなグループとなり、まちづくりのアイデア出しに向けて意見交換をおこなっていくこととなります。

次回以降のテーマ設定は、以下のようになりました。

テーマ①	ぶらくりの「核づくり」を考えるチーム <ul style="list-style-type: none"> 丸正の存在感を、今後どのように考えていくのか？ 集客の核としての再編可能性は？ 市民にとっての「総合センター機能」とは？
テーマ②	ぶらくりの「商店街づくり」を考えるチーム <ul style="list-style-type: none"> 商業、特に個店の魅力づくりと、店主を応援する方策は？ 空き店舗対策は？ 歩きたくなる環境づくりとは？
テーマ③	ぶらくりの「暮らしづくり」を考えるチーム <ul style="list-style-type: none"> 「ぶらくり」ならではの「まちなかの暮らし」とは？ 衣食住そろったまちの魅力とは？ すべての人に優しいまちづくりとは？（高齢者、障害者等）
テーマ④	ぶらくりの「情報発信戦略づくり」を考えるチーム <ul style="list-style-type: none"> 「ぶらくり丁新聞」の再興をどのようにできるか？ ターゲットは？（近隣居住者～市内居住者～市外からの訪問客） 効果的な情報発信、広告戦略は？

→本日の検討成果 [Aグループ](#) [Bグループ](#) [Cグループ](#) [Dグループ](#)

【今後の予定】

第3回のワークショップ(7/22)では、地方都市での中心市街地における活性化方策やにぎわいづくりに関して造詣の深い、日本政策投資銀行 地域企画部参事役の藻谷 浩介氏にお話を聞きながら、まちおこしを考えていきます。